



## 新小岩幼稚園・未就園児クラス

### 『 長男談義 その1 』

アドバイザー 猪之鼻晴子

「なんで上のお兄ちゃんってなんにも言うこと聞いてくれないんだろう」と、先週の未就園児クラスで長男談義となった。「言うことまったく聞いてないよね。」  
「聞かない、聞かない。だからイライラしちゃって。」  
「やっぱり、お兄ちゃんもそうでした？」と訊かれて「うんうん。まったく聞かなかったよ。」  
と、答え、いろいろなことを思い出した。  
長男が年長の時に、同じバス停の同級生のママとお互いに悩んでいたこと。  
「うち、まったく言うこと聞かないの。」「うち、。どうしてなのか。困っちゃう。」  
幼稚園のバスを待ちながら、毎日ため息をついていたのが、20年近く前になる。  
今考えてみたら、よくわかることもある。  
彼らがママたちの言うことを聞かなかったのではなく、言っていることがズレていたのだと。  
「急がないと」「静かに」「やさしくしないと」「きれいにしないと」……。  
ひとつひとつの言葉が通じていると思っていたけれど、子どもの側からすると  
「何を言われているかわからない。なんで怒っているかわからない。」きょとんとしていた。  
子どもの成長に合った言葉がけではなく、こちらの希望を言っていたのかもしれない。  
「普通、5才ならこれくらいできるよね。」  
「普通、男の子ならこんなことで泣かないよね。」  
「普通、何回も言ったらわかるよね。」  
普通なら、普通なら……と自分の尺度を押し付けていた。  
子どもの現在の姿とママの「普通なら……」という期待がズレている時にイライラが募る。  
「普通、中学生ならそれくらいわかるでしょう。」  
「普通、父親ならそれくらいやってくれてもいいでしょう。」  
「普通、おばあちゃんならそれくらい手伝ってくれるでしょう。」  
自分の期待と周りの人の行動がズレていることが、人間関係のイライラの原因なのだろう。  
誰かの行動 < こちらの期待 がイライラの原因の公式なのだ。

「じゃあ、なんで下の子にはあまりイライラしないのかな。」と話が続き。  
よく考えてみると、やっぱり一番上の子には知らず知らずのうちに期待が大きくなっているのかもとうなづき合った。  
下の子にはこれも知らず知らずのうちに大きな期待をしていないのかもしれない。  
期待から逃れた子どもはママにあまりうるさく言われることもない。  
「あら、いつの間にこんなことができるようになったの？」とほめられたりもする。  
自分の中の「普通なら……」を取り払って、その子の「今」を見てあげなければと思う。  
それでもまだなかなか期待を捨てきれず、「普通、6年生で忘れ物する？」と言っている。  
「オレ、普通じゃないからねー。」と平気な顔で言い返されている。